

4-(1)-⑮ 社会貢献・連携活動の状況

■ 東北復興支援機構(TRSO)

2018年度は事業なし

■ 美術館大学センター

本学を中心に、地域全体を「屋根のない美術館」にするという「美術館大学構想」のもと、これまで〈東北〉の風土に根ざした展覧会や、他地域とのネットワーク構築のためのシンポジウムを定期的に多数企画・開催してきました。

その活動の集大成として、平成 26 年秋から 2 年に 1 度開催する「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」をスタートさせました。平成 30 年度には第 3 回目を開催し、山形県郷土館「文翔館」及び本学キャンパスなどを会場にアート、音楽、詩などのほか、ジャンルの垣根を超えたアートプログラムを約 1 か月間にわたって繰り広げました。この「山形ビエンナーレ」の企画運営にあたっては、平成 25 年度から採択された「文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業」のアートマネジメント人材育成事業の活用により、多くの市民の参画を集め、関係機関との協働が展開されています。

また、温泉文化と創作活動の融合による「現代版・湯治」の創出を目指し、平成 19 年度より肘折温泉地区と共同で開催してきた「ひじおりの灯」プロジェクトは、平成 29 年度から地区の実行委員会が単独開催するまでに育ち、温泉街の夏を彩る風物詩として根付いています。

■ 社会人講座(生涯学習プログラム)

本学の教授陣と卒業生が、その専門とする技術や理論に、深みのある文化や情報のエッセンスを加えた社会人向けの講座を開講しています。身体や伝統という視点から和太鼓を学ぶ週末講座や、美術表現をとおして脳を活性化させるスキルを学ぶ臨床美術講座など、社会人の学びの目的やライフスタイルに合わせた 16 講座を展開しています。

■ 全国高等学校デザイン選手権大会(デザセン)

高校生の視点で、社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、2~3 人が 1 組のチームとなって解決方法を分かりやすく提案する大会です。第 25 回となる平成 30 年度は、全国から 910 チームの応募がありました。審査は、各界のプロフェッショナルの審査員が、「問題発見力」「分析力」「企画構想力」などのデザイン力を審査基準に、企画書での一次審査、提案パネルでの二次審査を行い、入賞 10 チーム、入選 30 チームを選出。入賞 10 チームは、本学での決勝大会で 400 名もの観客を前にプレゼンテーションし、優勝[文部科学大臣賞]以下、準優勝、市民賞などを決定します。出場した高校生のアイデアが実際に商品化・実現化した事例もあり、柔軟な発想は今後の社会の中でますます必要とされつつあります。本大会は、高校生が社会に巣立つ前にデザイン力を身につけるとともに、よりよい未来のあり方を社会にダイレクトに問いかけられる教育的実験場となっています。

■ 創造性開発研究センター

幼児教育機関「こども芸術大学」での幼児の創造性教育を更に進め、小中高生の「自ら学び、考え、行動する力」を育てる芸術思考とデザイン思考に基づく、教育方法の確立を目的に研究を進めています。

当研究センターでは、平成 25 年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、「生きる力を育む芸術・デザイン思考による創造性開発拠点の形成」をテーマに平成 29 年度までの 5 年間のプロジェクトに着手しています。